

第1学年「生活」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析） ← 当面の間、昨年度の1年生の実態より転載

- 成果**
- 気付きを共有し合い、自分からすすんで楽しく活動している児童が多い。
 - 自然と触れ合ったり関わったりすることに関心がある児童が多い。
- 課題**
- ▼ 生き物や周りの様子について、よく見よう、試してみよう、確かめてみようという気持ちをもつ児童は少ない。
 - ▼ 積極的に疑問を解決したり気付きを表現したりする力がまだ十分でない。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心をもつ。
- ◇ 自分自身や自分の生活について考える。

具体的な改善策

主体的に学習に取り組む態度のための工夫

- 植物などの世話をしているときに、児童が発見したことや気づいたことを、他の児童に頻繁に紹介していく。
- 体験活動を充実させるとともに、活動を通して得た気付きを基に考える時間を設ける。

言語活動の工夫

- ペアやグループによる発表（カードや話し合い）の機会を多くすることで気付きを深める。

ICT活用の工夫

- カメラ機能を使って記録をとり、児童の気づきや思考の深まりに役立てさせる。

課題解決力育成の工夫

- 活動を通して得た気付きを表現しやすくするために「見つける」「比べる」「たとえる」といった観点を示す。
- 一人一冊「わくわくずかん」を持たせ、問いを持ったらすぐ調べられる環境を整備し、自分で探す力を身に付けさせる。

達成目標

- 様々な体験を通して、自分で発見したり気づいたりできるようにする。
- 発見したり気づいたことを、言葉、絵、動作などにより表現したりできるようにする。